

生物多様性とSDGs ユース会議の成果について

2022年2月26日 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

テーマ	グループ	議論の成果
教育	A	生物多様性×大人と子供 ・保護者－親子イベント ・社会人－仕事場の緑化 ・幼児－絵本 ・青少年－(教育カリキュラム、課外活動内の環境教育強化)
	B	子どもとともにつくる自然テーマパーク(ユースの私達が中心となって!)～生きものが苦手な子も楽しく～ ①VRで動物体験 ②映えスポットと特典 ③産地の見える化 ④子どもとともにビオトープ
暮らし	C	・自然と共生するために、人々の意識を変えることが必要⇒生活に関わるゴミ、エネルギーに注目 (例)アプリで自分の物資の「消費量」を可視化→1年ごとに行う。(集計単位は ・エネルギー消費の基準を設定⇒各家庭ごと、自分の家庭がそれを上回るか、下回るか確認 ・夏祭りなど既存のイベントで生物多様性について学べるブースの設置
	D	・ゴミを出さないようにするための工夫(例:マイボトル、使えるものを使う、竹細工の普及、など) ・ゴミ問題の発信、普及(例:目に見えるところに絶滅危惧種をモチーフにしたデザイン、SNS、イベント等)
	E	・生物多様性×シニア⇒公民館でユースとシニアの交流(生きものや生物多様性について) ・生物多様性×プラゴミ削減⇒マイボトルの利用や量り売りゴミの削減、持続可能な資源(竹や木)の使用
ビジネス	F	途上国と消費者を繋ぐ仮想空間を提供するビジネス
	G	生物多様性を1日で学べる大きなテーマパークをつくる。「わくわくふれあいネイチャーランド」という名前。これをつくることによって自然と触れ合う機会を増やし、子どもからお年寄りまで楽しみながら学ぶことができる事業を行う。